

世界連邦 Newsletter

2012年 5月
第611号

発行所



世界連邦運動協会

World Federalist Movement of Japan

〒110-0015 東京都台東区東上野 1-20-6 丸幸ビル 3F

電話 (03) 6803-2114 FAX (03) 6803-2117

E-mail: info@wfmjapan.org Twitter: wfmjapan

URL: http://www.wfmjapan.org/

郵便振替 00190-6-29964

1部 100円 (奇数月 1回 28日発行)

2012年度定例総会開催



開会の挨拶を述べる海部俊樹会長

世界連邦運動協会の2012年度第67回全国総会が、5月13日、東京・日比谷図書文化館コンベンションホールで開催された。2011年度の一般会務報告および決算報告を承認し、2012年度の運動方針・活動計画および予算を決定し、最後に総会宣言を採択して閉会した。

午後1時に開会。はじめに海部俊樹会長が挨拶を行い「先日は台湾や中国でも世界連邦について話をしてきた。誰かが何かをやってくれることをあてにしている世界連邦はできない。それぞれの立場で発言しつづけることが大事。」と述べた。

次に日下部禎代子理事長から挨拶があり、「会員の皆様のお一人おひとりの絶え間ない日常の活動があってこそ世界連邦運動が繋がっている。」と感謝の意を述べた。

続いて宇都宮憲爾筆頭副会長、荻野忠則副会長、城忠彰副会長の挨拶が行われた。

その後世界連邦日本国会委員会会長の中野寛成衆議院議員、世界連邦宣言自治体全国協議会の山崎善也会長のお祝いのメッセージが紹介された。

長年、女性の地位の向上、民主主義の確立、地域社会の発展などのために地道な努力をしている女性を表彰する第41回赤松賞の表彰に移り、阿久根武志事務局長から稲見圭紅さん（世界連邦運動協会執行

理事・岡山県支部事務局長）の経歴と業績の紹介があり、海部俊樹会長から稲見さんに赤松常子顕彰会からの表彰楯と賞金が授与され、稲見さんが感謝の言葉を述べた。



赤松賞を受賞した 稲見圭紅さん

（岡山県支部事務局長・本部執行理事）
地域清掃活動や福祉施設への慰問などを行う。2005年から会員。専門は食品関連のコンサルタント。

続いて議事に入り、仮議長に坂本章

子氏が選ばれ、総会役員を選出、議長に選出された平口哲夫執行理事から挨拶があり、松香光夫資格審査委員から総会の成立が宣言された。

2012年度一般会務報告：本部の阿久根武志事務局長から、執行理事会、理事会等の動き、東京・政策研究大学院大学での日本大会、第五回世界連邦実現に関する政策提言などについて報告があった。

2011年度決算報告：阿久根事務局長により、収入8,749,732円、支出9,667,287円、差し引き当期差損金917,555円の決算報告が承認された。

2012年度運動方針案について阿久根事務局長から説明がなされた後、各委員会の活動計画について城忠彰理論・政策委員長、塩浜修政治活動委員、木戸寛孝組織委員、教育・広報委員長の代わりに阿久根武志事務局長、勝見貴弘国際副委員長、木戸寛孝財務委員から説明があった。

別記の通り2012年度活動計画を決定。

支部提案として、北海道支部の荻野忠則支部長から発表があり、世界災害救援部隊の創設や、原子力の管理についての提言があり、執行理事会等で検討することが承諾された。

谷本真邦ユースフォーラム支部長から総会宣言文が発表され、世界連邦の歌を全員で唱和し、閉会した。

閉会后、第一回理事会が行われ、日下部禎代子理

事長の留任を決定。副理事長は今村義治、西山敏和の両氏。

執行理事19名の承認を行い、名誉理事長は高木旭氏、会計理事は松香光夫氏となった。

第67回 2012年度 世界連邦運動協会総会宣言

昨年三月に起きた東日本大震災においては、途上国も含めた世界の多数の国々からの支援を受け、世界的な絆の重要性を改めて確認した。私たちはその支援に篤く感謝するとともに、率先して世界連邦実現に邁進し、人類共生のために努力することを約束する。

東日本大震災では、津波による甚大な被害に加えて、深刻な原子力発電所事故が起きたことから、エネルギー資源のあり方が根本的に問われることになった。私たちは持続可能な社会を継続できるよう、全世界の課題として脱原発に向けての論議を進めなければならない。

一方、インターネットをはじめとする情報ネットワークは、距離に縛られず全世界の人々への広報活

動を可能にした。世界連邦運動においても、この情報ネットワークを充分活用して、平和・環境など地球規模の課題に取り組む国内外のNGOとの連携を強化していく。

本年はわが国が主権を回復し、国際社会に復帰して六十周年となる。また、人間環境宣言が行われて四十周年、リオ・デ・ジャネイロで環境サミットが行われて二十周年に当たる。私たちはこの記念すべき年に世界連邦への理解を全国民はもとより全世界に広め、大きな世界市民運動へと高めていくとともに、この人類最大の事業の達成のため、全力を尽くすことをここに誓う。以上、宣言する。

2012年5月13日

世界連邦運動協会第67回総会

2012年度活動計画

【理論・政策】

世界連邦創設に向けた可能性を探求するために、主として以下の3点から理論的研究を行う。

1. 欧州連合（EU）、東南アジア諸国連合（ASEAN）といった地域統合の進捗状況の分析、提起されている各種の世界連邦憲法草案の分析などを通して、世界連邦建設に向けた条件整備を研究する。
2. 国連安全保障理事会をはじめとする国連改革、国際司法裁判所（ICJ）や国際刑事裁判所（ICC）の機能拡大など、既存の国連システムを世界連邦の制度にいつそう近づける方策の研究を行う。
3. 地球規模の課題を克服し世界連邦の条件整備を円滑にするため、国際連帯（取引）税、自然災害に対応する国際救済組織、原子力・エネルギーの国際管理制度、沖縄の基地問題をはじめとする安全保障政策、ワールド・エシックス・フォーラム、保護する責任、国連気候変動防止条約をはじめとする環境条約、といった現在国際社会で議論されている項目を精査・研究する。

【政治活動】

1. 世界連邦実現を我が国の国是とする歴史的な2005年国会決議の可決を出発点として、世界連邦日本国会委員会や、「地球規模問題に取り組む国際議員連盟日本委員会」（PGA ジャパン）を始め友

好団体との緊密な協力をますます強化し、この問題の政府の窓口である外務省及び国の関連機関とは今後更に一層緊密に連携し、国内はもとより、世界に対して強力な運動を展開する。

2. 世界連邦宣言自治体全国協議会と緊密に連携し、市町村合併による弱体化を補強するため、世界連邦宣言自治体の増強のために懸命に努力する。
3. 過去5回にわたる世界連邦実現に関する政策提言に触れられた内容について、国会委員会所属議員から質問してもらうなどの手法で具体的進展を求める。その際6月に行われるリオ+20や7月の武器貿易条約交渉会議など、国際会議の動向を考慮する。

【組織】

1. 支部推薦理事に関する規約を見直し、支部の規模に拘らず各支部から1名は理事を出し、本部と支部の連携を強めていく。人数が減少して支部要件を満たさなくなった支部については、ただちに支部を解散するのではなく、半年から1年かけて、個別状況に応じた対応をとり、何らかの形で活動が続けられるようにする。
2. 本部と有力支部が連携をとりながら、通常の支部レベルの勉強会（30～50人くらい）と、日本大会（200～300人）の中間的な規模のもの（80人から100人くらい）を年1、2回開催すること

で、運動の促進と、新規会員獲得に努める。

3. 新たな支部立ち上げが一部で見込まれる一方、会員の高齢化は進み、全体としては会員数が減少していることから、引き続き、各支部は勉強会やイベント企画などを通じて、会員の増員と継続のために一層の努力をしていく。
4. 政策を共有できる他の NGO と連携を図りながら最新の国際情勢を活動に取り込むと同時に、彼らと活動を共にすることで世界連邦運動の活動が社会に周知されるように努める。

【教育広報】

1. 広報活動の手段を充実させ、世界連邦理念の深化と活動の拡大を図る。

①「世界連邦ニューズレター」の内容充実を図り、世界連邦の理念・政策の伝達、平和教育推進の効果的な魅力的な媒体とする。

②本部ホームページの内容充実を図り、各支部が互いにリンクし合えるものとし、インターネットを広報・公聴の有力手段として、有効活用する。

③子ども向けジュニア新聞『平和の種（仮称）』刊行のための準備委員会を設置し、予算・構成員・内容等を検討する。

2. 各支部はイベント開催や多彩な独自活動等を積極的に展開し、報道機関等にも進んでアプローチする。その際、『世界連邦リーフレット』や、
 1. の各種手段を有効活用する。
3. 小中学生平和ポスター・作文コンクールの一層の充実発展を図り、本年度も東京都庁展示室に展示する。又、各支部が優秀作品並びに世界連邦に関するパネル展示を行い世界連邦運動の拡大と平和教育の進展に努める。
4. 支部活動の充実を図り、全国の活動を発展させる。

①地方からの草の根運動に力点をおいた新たな活動を創出する。

②相互の連絡を密にし、効果的な情報交換が出来るブロック活動を強化する。

③青少年対象の『出前平和授業』等を充実・進展させ、平和意識を高める。

④各組織が、本年度の具体的な行動目標(数値目標)を設定・公表し、更に年度末には総合評価を行い、その結果をHPやニューズレターに掲載し表彰する等で意識高揚を図る。

5. 「世界的情報ネットワーク」を活用して、広く国内外にわたって世界連邦運動を強力に推進できるように、もっと多くの人たちに知らしめる。

【国際】

理論政策委員会で取りまとめられた2012年度理論

的研究の3本柱(下記1~3)を世界の運動と具体的に連携させ、個別具体的な政策課題に基づく協力関係を築くために、日本政府、在京のEU代表部、ニューヨークのWFM本部、そして国際NGOとの連携を図る。また本年7月に行われるカナダ・ウィニペグWFM世界大会を十分に活用する。こうした動きをニューズレターで紹介して行く。

1. EUなど地域連合との連携

- ・ EU, ASEAN, AU等の地域連合在日代表部表敬訪問
- ・ 地域連合の諸課題に加え、以下の諸点に対する取組みについても意見聴取
 - ICJ国際司法裁判所と地域連合
 - ICC国際刑事裁判所と地域連合
 - 保護する責任(R2P, Responsibility to Protect)
 - 国際連帯税(FTT, Financial Trade Taxation)
 - 政治的な地域代表制(UNPA, United Nations Parliamentary Assembly)

2. ICJとICCの充実

- ・ 外務省ICJ、ICC担当者から意見聴取
- ・ ICJ裁判長来日時を表敬、意見聴取
- ・ PGA(Parliamentarians for Global Action) ICCキャンペーンとの連携等

3. 地球規模問題に対する取組み(外務省地球規模問題担当官に進捗状況聴取)

- ・ 国際連帯税(グローバルタックス研究会等)
- ・ 自然災害に対応する国際組織、沖縄基地問題(防衛省中央即応集団、在日米軍司令部等)
- ・ 原子力の国際管理(PNND, Parliamentarians Network for Non-proliferation and Disarmament、平和市長会議等)
- ・ 環境・持続可能なエネルギー(グローブ、Global Witness等)
- ・ ワールド・エシックス・フォーラム(国連大学、IEGL, Institute for Ethics, Governance and Law等)

4. 以下のことを日本政府に提言する。

- ・ 国際刑事裁判所ローマ規程の条文への核兵器使用禁止の条項の追加
- ・ 同ローマ規程について、2010年再検討会議にて採択された侵略犯罪の定義及び管轄権の行使手続きに関する改正条項、並びに非国際的武力紛争下での特定武器の使用禁止条項への早期批准

【財務】

1. リーマンショック以降、本部の財務状況は非常に厳しい状況が続いており、事務所移転やニューズレターの回数を少なくするなどして経費削減に最大限努めてはいるものの、年間にかかる

経費を会費や通常寄付による収入だけでは見込めないため、有志による毎月 1 万円の登録寄付を 2010 年から行って来た。昨年 2011 年度においては、19 人の方々から総額 228 万円（年 12 万円×19 人）の寄付を頂くことで乗り越えることができたが、新たな大口の寄付者が見つかったわけではないので、2012 年度も引き続き、同規模の登録寄付を募ることで持続可能な財政状況を維持していけるよう努める。

2. 世界連邦運動と理念や政策を共有する財団や企業からの助成金プロジェクトへの申込を積極的に行っていくよう努める。法人格を有することを助成への条件としている場合は、NPO 法人格を持つ世界連邦 21 世紀フォーラム支部が受け皿となる。（ただし、認定 NPO ではないため寄付した人は寄付金を経費処理することはできない。）

北朝鮮弾道ミサイル発射騒動から見えてくるもの

軍事問題研究家 山崎 八九生

<なぜ弾道ミサイル発射と核実験を強行するのか？>

「なぜ北朝鮮は弾道ミサイル開発や核実験を強行するの？ そのお金で食糧を輸入すればいいのに、あの国のやろうとしていることがよく分からない」という疑問の声をよく聞く。その答えは至って簡単明瞭だ。「北朝鮮は“生き残る”ための手段として核弾頭と長距離弾道ミサイルの開発に奔走している」のである。他方、食糧不足から国民が餓死しようとも、「反政府的な層の数が減るのでかえって好都合」ぐらいにしか思っていないのかもしれない。

<対米交渉の切り札として>

2003 年にアメリカが「難癖をつけて」一方的に始めたイラク戦争は、「イラクが大量破壊兵器を保有、そして破棄しなかったからではなく、保有していなかったからこそ戦争をしかけられたのだ」と北朝鮮は分析し、2006 年の核実験に至ったと考えられる。

「核」は小型化させて核弾頭として弾道ミサイルに搭載すれば、その能力を格段に増し、有力な外交政治のカードになる。少なくとも北朝鮮はそう確信している。そうすることで、軍事面では「核抑止力」を得てアメリカの軍事攻撃を防ぎ、政治面では米朝二国間交渉を目論んでいる。一方、拉致問題のこじれで暗礁に乗り上げたままの対日関係は、「対米追従の日本など、米朝交渉さえ上手くまとまれば、日本はそれに従うだけだろう」とタカを括られている感がある。

<開発が進む弾道ミサイル>

あっけなく爆発・飛散した今回の打ち上げだが、その能力は確実に向上している。射程が伸びていることに加え、今回は北から南という縦方向に発射している。偵察衛星が地球表面を「スキャン」するには縦方向の周回軌道に乗せる必要があり、これはこれまでの西から東という横方向よりも相対的にやや高度な技術を要求される。人工衛星を地球の周回軌道に乗せるには、秒速 8000m 以上の速度を要するが、地球は秒速 400m で自転しているため、自転方向に向

って打ち上げればその分の速度を利用できるが、縦方向ではそれができないからだ。

<BMD（弾道ミサイル防衛）への疑問>

大気圏に再突入した弾道ミサイルは、ライフル銃の銃口を飛び出す弾丸の何倍もの速さになっている。PAC-3 はそれにダイレクトヒットさせて破壊するのだが、コンピューターの性能向上による解析能力の速さと精度の高さによって、実験や訓練での命中率は上がっているようでも、それは単弾頭の場合であって、オトリ（ダミー）の放出や複数弾頭化された場合の対応能力は低いままのようだ。また単弾頭であっても、再突入時にその衝撃で 2 個以上に破断して不規則な落下弾道になってしまうと対応が困難と言われている。さらに大気圏外で迎撃する SM-3 の場合、弾道ミサイルの射程が延びて ICBM クラスになると、必然的に高度が高くなり（弾道ミサイルは逆 U 字型の放物線を描いて飛翔するため、底辺に相当する距離が長くなるということは、逆 U 字の頂点が高くなることを意味する）現在の SM-3 では迎撃高度が不足することが懸念されている。

<次の核実験は濃縮ウラン型か？>

今度行われるかもしれない核実験には、水爆開発を視野に入れた濃縮ウランを用いるのではないだろうか。1964 年に中国が最初の核実験をした時の原爆がプルトニウム型ではなくウラン型だったので、「水爆開発を目指している」と推測された。水爆の起爆剤としての原爆には、ウラン型の方がプルトニウム型よりも水爆実験が容易だからだ。その詳しい理由は不明だが、原爆の核爆発によって生じる中性子放射量を少なくできるからだろう。ただし起爆方法は、ウラン型であってもプルトニウム型と同じ爆縮方式であろう。

<黒鉛炉と軽水炉型原子炉からのプルトニウム>

「なぜアメリカは北朝鮮が（小規模な）黒鉛炉を廃棄すれば、その見返りとして（本格的な）軽水炉をしかも 2 基提供すると言ったのか？ より大規模

な原子炉から取り出したプルトニウムでより多くの核兵器の材料を与えてしまうのではないのか？」と聞かれたことがある。詳しくは軍事月刊誌の「丸」2011年7月号に掲載の拙論を参照していただきたいが、黒鉛炉（元々は、発電ではなく、核兵器用のプルトニウムを生成するための原子炉）と違い、軽水炉の使用済み核燃料から取り出したプルトニウムでは核兵器級のそれとはプルトニウム同位体の配分率が相当異なり、要は「マトモな」原爆には成り得ない。

<北朝鮮にどう対処すべきなのか>

北朝鮮は日本にとって唯一国交のない国であり、核兵器開発に狂奔するなど厄介な「隣人」である。そんな「隣人」に対し、最も短絡的で稚拙な対応が「日本の核武装」である。日本が核武装したとしても（諸般の事情から様々な困難が予想され、事実上不可能）、それでひるむような北朝鮮ではなく、むしろそれを口実にしてより一層核開発に奔走するであろう。それは中国とても同じで、日本の配備に優る核兵器を配備して臨んでくることは十分予想できる。そのため日本の地政学上の狭隘な国土と人口密度、政治風土から言って、核武装は日本の安全保障能力を高めるものでは断じてあり得ない。

一方、冒頭で述べたように北朝鮮の弾道ミサイルと核兵器開発は、日本を核攻撃するためのものではなく、対米交渉のカードであるのだから、「弾道ミサイルと核兵器の開発を放棄するのなら、日本はアメリカの極東最大の同盟国として、米国が貴国への軍事行動をしないよう働きかけ、また日本も経済援助を惜しまない」とのメッセージを繰り返し伝え、当面は警戒しつつも静観するしかないのではないだろうか。

ベルリンの壁崩壊とそれに続くソ連邦の崩壊など、多くの矛盾を抱えながらも依然として強固だと思われていた国家であっても、「チョットしたこと」で、それまで堰き止められていたエネルギーが噴き出すと崩壊の過程は一挙に進み、もはや誰にもそれを止められなくなる。北朝鮮が崩壊する時もそのようなものになろう。それをどのようにして乗り切るかで我国の力量が試されるのである。

追伸：紙幅の都合上、元原稿を半分に縮小して掲載しました。縮小前の原文は本会のHPでご覧いただけます。

<http://www.wfmjapan.org/images/ymzk-nkrreport.pdf>

北京レポート

常務理事 木戸 寛孝



今年は日中国交正常化 40 周年ということもあり、4月23日に、世界連邦運動協会の楊榮展理事の紹介で、宇都宮憲爾筆頭副会長と木戸寛孝常務理事、松田創理事が、北京にある中国国際文化センターの要人の方々を表敬訪問し、日中両国や両団体間における友好ならびに協力関係について意見を交わした。

まずは午後3時から事務局レベルにおける会議では、中国国際文化センター事務局長である丁奎淞氏と、中国政府の対外政策を立案する中国現代国際関係研究院・日本研究所の馬俊威副所長と徐永智氏

ほか3名が、会議に同席した。

丁奎淞氏は、次のように語った。

《中国は国内に対しても海外に対しても“平和の道”を歩むことを国策として考えており、建国後ずっと「平和共存五原則」を外交政策の原点としている。中日両国は平和の理念を両国関係の根本的な出発点とし、協力して地域の安全や安定を維持していくことが重要である。

私たちは中国の経済はどこまで発展しても平和発展の道を歩んでいくという理念を信じている。ここには三つの基本的なポイントがある。第一は、私たちは中国の発展を持って世界の平和を促進すること。第二は、地域と世界の安定及び平和を維持し中国の発展を守っていくこと。また経済発展は省エネ、グリーンな発展をしていくこと。第三は、対外関係について、平和・発展・協力を基本姿勢として関係国との間の色々な課題を解決していくこと。

貴協会との協力関係の中で、協定を作り急いで宣言するというのではなく、まずは“何が共通点なのか”また“両国の問題は一体どこにあるのか”「共同研究」を通じてこれらを明らかにしなくてはならない。私は貴協会と一緒に平和を促進しました地域の

安定を維持する道を一緒に歩いていくことを信じている。だから中日関係また地域関係について有益な「共同研究」をすることが良いと思う。中国国際文化センターは共同研究の他に「文化交流」もしている。これは中日国交正常化 40 周年の重要な一つである。皆様と一緒に中日の友好を推進していきたいと考えている。》

世界連邦運動協会側も「軍事に関わる国家安全保障問題や、経済に関わる中国との FTA 等のテーマもあるが、お互いがより共通して取り組みやすい自然災害対応やパンデミック対応、そして自然環境問題などの個別テーマごとに日中関係が国境を越えて協力できる枠組みがどのようなものかを共同研究できたら大変に有り難いと思う。また民間人ならではの平和をテーマにした文化交流も、ぜひ日中両国の架け橋となるべく推進していきたい。」と返答した。

会議終了後、午後 5 時過ぎ、会場を北京市内のレストランに移動し、今回の表敬訪問の目的でもある

中国国際文化センター副理事長である林麗韞氏との懇親会が開催された。林氏は台湾人でありながら戦前・終戦直後に日本にも住んでおられ、1972 年の日中国交正常化の際には周恩来の秘書と通訳を務め、その後に毛沢東から認められ、現在も中国共産党・全国人民代表大会の常務委員会を務める日中台友好トライアングルの鍵を握る最も重要な人物。

林氏は会食をしながら次のように述べた。「私たちの上の世代が築き上げてきた“平和”への道を私たちが守らなければなりません。そして次の世代の皆さんが共に力をあわせてその平和を発展させて下さい。」

21 世紀の大国・中国との友好関係は、世界平和における重要な論点であるだけに、この度の機会を切っ掛けにして、民間による日中友好の架け橋となれるような取り組みを世界連邦運動協会としても積極的に努めていきたい。

ユースフォーラム支部 小学校の道徳授業・地区公開講座で特別授業

ユースフォーラム支部長・国連の友 Asia-Pacific 委員長
谷本 真邦

さる 1 月 21 日、東京都江戸川区立第四葛西小学校で 1 年に 1 度行われる道徳授業・地区公開講座の特別授業を行なった。

この特別授業は、5 年生、6 年生の児童全員と保護者や地域の方々で満杯になった同校体育館で、国際協力をテーマに「助け合う世界、奪い合う世界～世界の絆～」と題して進められた。私は、「世界は良い意味でも、悪い意味でも繋がっている。世界の紛争、貧困、病苦、環境問題などは、私達と無関係ではない。私達の考えや生活の仕方も世界に影響を与えている。自分達が欲しがることが紛争や環境問題の原因になったりもする。」という事実を、子供達にも分かりやすい事例を交えて話し、最後に「この世界全体の正しい秩序を作るには“世界連邦”が必要である」と締めくくった。

授業は 3 時間で、前半と後半に分けて行い、前半は私の講話を中心とし、後半は児童たちに感想文を書かせ、20 名ほどの児童が代表して発表したあと、私とディスカッションをした。児童の一人は「今まで、世界のことを知らなかったけれど、今日からは世界みんなのことを考えて、物を無駄にしたりせず暮して行く」などと感想を発表した。

世界連邦運動は伝統ある運動だが、かつては厳しい国際社会の現実の中で、世界連邦は実現した方が



良いがあくまでも現実性の無い理想とされ、諸先輩方は大変な苦勞をされたと思う。しかし、これからの時代は、グローバル化、情報化社会、フラット化、流動化、市民も加えた新しい公共、地域統合、帝国主義の限界、独裁体制の崩壊などが進み、世界連邦運動に追い風が吹いてまさに時代の最先端の運動になる、というのが私の持論である。

こういった行事を通じ、未来を作る子供たちや若者たちに世界連邦運動の存在と意義を伝えていき、今世紀こそ世界を一つにして平和にするという人類最大の夢を現実のものにしていきたい。

支部紹介 世界連邦 21 世紀フォーラムのこと

塩浜 修



今、首都圏には若者を中心とする支部が三つある。その中で最初にできたのが運動協会の常務理事・木戸寛孝氏を支部長とする「世界連邦 21 世紀フォーラム (21 世紀フォーラム)」である。

今まで、世界連邦の支部は地域名を冠するものであった。私も自分が住む豊島区に支部を作ろうとしたが、中々集まらず、先に木戸氏が、地域と関係なく個人的な人脈で「21 世紀フォーラム」を作り、「その手があったか」と私も真似して中野岳春氏を支部長に「平和を考えるフォーラム」を設立、更に谷本真邦氏が「ユース・フォーラム支部」を設立した。

今後、ネットなどで知り合い、地域・職場を超えたつながりが増えていくと思われる。上記のような支部の設立も増えていくのではなかろうか。

21 世紀フォーラムは、毎月講師を招いて講演会を開いている。まず、これがすごい。数人で膝を突き合わせての勉強会ならともかく、50 人～100 人規模の会を毎月開くのは大変であろう。

そして常に半年くらい先までスケジュールが決まっている。かなり前からスケジュールが決まっていることで、参加者としては予定をたてやすいものと思われるが、主催者側は大変ではなかろうか。いつも感心し

ている次第である。

とりあげるテーマは、環境、国際連帯税、核軍縮、少年兵などの他、時としては、「直接は世界連邦と関係が薄いんじゃないの」と一瞬思うものもある。しかし、そのあたりが木戸氏の素晴らしい感性であり、一見関係が薄そうなテーマも究極的には全てつながっているのである。時に企業の在り方を語り、時に科学の進歩への期待とともに行き過ぎへの警鐘を鳴らす。歴史・宗教・物理・哲学・経営などあらゆるジャンルが世界連邦というテーマとのつながりで語られるのは見事である。

正式に世界連邦の支部として活動したのは 2009 年、しかし、その 2 年前から毎月講演会を主催していた。

私個人は 2008 年に量子力学・脳科学・不確定性原理など、理系テーマを中心に行ったシリーズが一番面白かった。と、同時に、なぜ文系出身の木戸氏がこんなに理系分野にも詳しいのかびっくりもした。

もう一つ感心している点を書こう。

この支部の一般会員の中に、「一国一城の主」が多いのである。支部主催の講演会では一聴衆として聞いている人が、実はベンチャー企業の社長だったり、ご本人が人気講師だったりするのである。

強いリーダーを持つグループに時々ありがちなこととして、リーダーに頼りすぎ、他の者はただついていくという現象がよく見られるが、「21 世紀フォーラム」の会員は一般会員が外に行けばリーダーだったりするのである。

世界連邦について、運動論的に課題もいろいろあるが、「21 世紀フォーラム」のような支部があることは、未来に明るい希望を感じるものである。

<http://www.wfmjapan.com/>
世界連邦 21 世紀フォーラム

著書の紹介 森山 眞弓 著 (河出書房新社) 「つまり、政治家とは 激動の時代とともに」

戦後日本の変遷のなかで、「女性初」を歩み続けた著者が、今だから語れるこの国の過去と未来。

森山 眞弓 (モリヤマ マユミ)

津田塾専門学校、東京大学法学部卒。労働省婦人少年局長を経て、参議院議員 3 期、衆議院議員 4 期を務める。国務大臣環境庁長官、内閣官房長官、文部大臣、法務大臣を歴任。現在、(財)日本カメラ財団理事長。(財)尾崎行雄記念財団理事長。世界連邦運動協会会長代行。

海部俊樹会長に台湾国立中央大学が名誉博士号を授与

2012年3月8日、海部俊樹会長が、台湾国立中央大学より名誉博士号が授与された。海部元首相が50年に渡る政治家としての人生を歩んだ中で、教育と環境保護を重んじ、地球保護における諸問題に積極的に取り組み、力を注いできた功績が、台湾中央大学が掲げている「地球と環境保護の持続的成長」と同じ願い・理念であることから、今回の名誉博士号の授与に至った。教育と環境問題に取り組んできた海部元首相は、「地球環境は、国境、宗教及び人種を超越して人類が心をつなげて協力してこそ、成功を収められる。想いを同じくする台湾中央大学の名誉博士号を拝受いたしましたことは、誠に光栄の至



りに存じます。」と感想を述べられた。

<http://www.yomiuri.co.jp/adv/chuo/news/20120329.htm> 参照

本部と支部等の動き

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|---------------------|
| 3月24日 | 都連春の研修会岩浅氏講演 武蔵野市 | 5月26日 | 松山支部 総会 コムズ5F |
| 4月20日 | 第5回執行理事会 第二議員会館 | 6月2日 | 神戸平和祈願祭 ポートアイランド北公園 |
| 5月12日 | 世界連邦21世紀フォーラム 川崎哲氏講演会 | 6月3日 | 京都支部総会 D. キーン氏講演会 |
| 5月12日 | 世界連邦運動協会 第2回理事会 | 6月7日 | 近畿協議会総会 泉尾教会 |
| 5月13日 | 第67回全国総会 日比谷図書文化館 | 6月10日 | 武蔵野支部総会 瀬谷ルミ子さん講演会 |
| 5月14日 | 第1回理事会 日比谷図書文化館 | 6月16日 | 世界連邦21世紀フォーラム富田氏講演会 |
| 5月16日 | 豊中支部総会・社会見学(淡路島) | 6月23日 | 京都・大阪府支部総会 日下部理事長講演 |
| 5月19日 | 石川県連合会理事会・総会 | 6月29日 | 第一回執行理事会 永田町 |
| 5月20日 | 世界連邦北海道総会 札幌エルプラザ | 6月30日 | 岡山県支部総会 岡山シティホテル |
| 5月26日 | 加古川支部総会 加古川市民会館 | 7月26日 | 松山市戦争犠牲者平和記念追悼式 |

編集後記 ★おかげさまで定例総会が無事終わりました。平素、世界連邦運動を支えて下さっている皆様方へ心から御礼申し上げます。★各支部の情報を引き続き募集しております。6月末までに事務局までご連絡ください。(阿久根) ★四国4県は毎年、四国ブロック会議を開催している。高知から高松、松山には頻繁に出掛けて交流を図っている。その輪を対岸の広島、岡山、兵庫にも広げていきたい。広島の城さんが「環瀬戸内海」と言い出した。いい響きだと思う。何かできないか模索中です。(伴)

世界連邦運動に参加を

世界連邦運動協会の目的に賛同し、その事業に協力する方は、だれでも会員になることができます。入会希望の方は申込書へご記入の上、郵送またはFAXにて下記の本部事務局へお申し込み下さい。折り返し、最寄の支部を紹介いたします。お近くに支部がない場合は本部直接会員の入会申込書と会費の納入の郵便振替用紙をお送りいたします。

入会されますと機関誌『世界連邦 Newsletter』をお送りいたします。

〒110-0015 東京都台東区東上野 1-20-6 丸幸ビル3F

世界連邦運動協会

電話 (03) 6803-2114 FAX (03) 6803-2117

申込書

氏名 _____

住所 〒 _____

電話/FAX _____

E-mail _____

普通会员/年額 5,000 円 維持会員/年額 10,000 円

賛助会員/年額 15,000 円